

お茶の時間



選挙の都度、投票率の低さを嘆く声が聞こえる。身近にいる若い人たちに投票に行ったか尋ねると、一人暮らしの人からは「いいえ」の返事。理由は、立候補者に対しての判断がわからない、興味なし、一人で行けない、等々。

選挙資格を18歳に下げても、今のほど変化がみられるとは思えない。期日前投票は、かなり知れ渡ったが、投票会場の在り方を考えない限り、投票率の改善はみられない気がする。

越後人は我慢強い性格と言われ、根性王大いに発揮することだ。友人は我々も、豪雪地で培った。

友人が、副市長職を引き受けたことを新聞で知り、お祝いのメールした折の返信だ。もう随分昔になるが、「地み込んでばかりいた私に、笑顔には笑顔を寄せてくるんだよ」と励ましてくれた。そして、その友人の職場の女性が、家庭内のもめ事か何かで悩んでいた時、私に話してくれた。私の心にも響き、忘れられない言葉となった。

とこるに響く言葉
とこられた仕事は
一生懸命
金うしなした

小悟

心が元氣



「ブルデンワークがやってきた。行楽地に出かけるもよし。自宅でのんびりするもよし。自宅での日差しを浴びて、縁側や庭でお茶を飲むと、さうさうとおいしく感じる。

馴染のマーケットの豆腐コーナーで、おいしくさん用の揚げ物が目に止まり、少し振りに煮てみようかと、三袋買った。米一合で八個できる。揚げ物を半分は切り中をほろろと（たうす）にはお水も、お水も揚げ物に少しお湯を通して煮た。何年ぶりだろうか、稲荷寿司を作るなんて。食べやすさもあり子育て中は、黒砂糖で揚げ物を煮込み、炒りゴマを混ぜた酢飯を詰め、おいしくりさんを、よく作るものだ。なつかしさを加わり、とてもおいしかった。

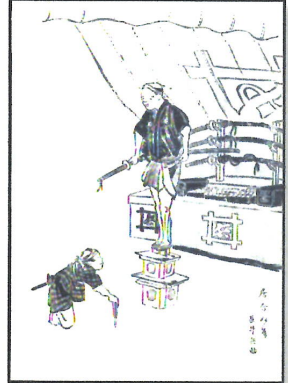
一昨年秋だったか、新潟日報生活欄に掲載された、評論家・吉沢久子さんの人気コラム「家事レポート」で記憶しているものがある。小田原にある、知り合の豆腐屋の奥さんが、毎年秋になると、油揚げを煮て送る下されるのだとか。たうさん、届くまで、吉沢さんは酢飯を固めて、煮たお湯の中に入れて、お水も、お水も揚げ物に少しお湯を通して煮た。何年ぶりだろうか、稲荷寿司を作るなんて。食べやすさもあり子育て中は、黒砂糖で揚げ物を煮込み、炒りゴマを混ぜた酢飯を詰め、おいしくりさんを、よく作るものだ。なつかしさを加わり、とてもおいしかった。

歯のよもやま話 第二十五話

歯と文学 三 川柳一

文学に出てきた「歯」について、次は川柳です。川柳は扱った内容が広いので、最近の物は拾いきれませんが、そこで、ここからは古川柳（江戸時代）に限ることとします。

食い潰すやつに限って歯を磨き道楽息子ですが身だしなみには人一倍気を使います。江戸っ子は歯が白くなければもてません。歯磨き粉は房州の砂か、赤穂や吉良の焼塩を使いました。忠臣蔵のきつかけは塩の当てこすりから来たとも言われています。何事ぞ 歯を抜く人の長刀（なががたな） 歯磨き粉は浅草や上野などの盛り場です。



長井兵助

香具師（やし）が曲芸を見せながら売っていました。中でも松井源水の独楽廻しや長井兵助の居合抜きが有名でした。ついでに歯も抜きました。本郷もかねやすまでは江戸の内町中では本郷と芝の「兼康」の乳香散が有名でした。両店は姉妹店でしたが争いになり、本郷を「かねやす」とすることで解決しました。かねやすは今も本郷三丁目の交差点角に洋品店として現存しています。かねやすから南は茅葺きを禁じられていて瓦葺きが多く、北は茅葺きだった



かねやすの案内板

ため、かねやすが江戸の北限と認識されています。浦島は歯茎をかんでくやしがり歯まで抜けちゃった。物や思うと人の問う虫歯病みあごに手を当てて難しい顔をして、何を考えているかと思つたら。耳に歯もなくして何かを聞きかじりかじるのだから歯が必要かな。行こうかと 田楽申で 歯をせせりこの田楽やは浅草から新吉原に行く途中の有名店。歯が抜けてから嘔（かみしめ）る親の恩。そんなもんです。朝帰り入れ歯が抜けて止む叱言（こごと）と。叱言の最初は物凄かったが、終りがしまらない。はがぬけてからかおのしずけき昔は怖い顔をしていたのに、顔が寸詰まりになって好々爺になっちゃった。歯のぬけた婆々ア娘のすねをなめ昔は娘にスネをかじられていたのでしょうか。今は養ってもらっています。留守居にハならぬ下歯のぬけた奴間抜け面。ということかな。三つのうち目も歯もよくて哀れなり歯は入れ歯目はめがねにて事たれど年を取ると歯と目となにかが不自由になるというのですが。

子田晃一

暮らしを彩る

4月12日(日) 選挙の日 快晴



(やまぎん環治いの歩道)

マーン見事! こんなに身近で楽しめちゃった。息子が友達と出かけた白山公園内空中庭園の花見会場を昼のニュースで偶然見て、私たちも散歩に、と出かけた。広場は桜ですっぽり被われ美しいと。白山神社(新潟市中央区一番堀通)に隣接の、オランダ風回遊庭園だ。芸術文化会館、県民会館、音楽文化会館もある。神社内歩道に屋台が並び賑わい、信濃川に沿うやすらぎ堤では子供が走りまわっていた。花見客がほどよく分散され、ゆったりしている。桜の屋根の下をぶらりと歩くもよし、仲間と語らうもよし。居心地の良い花見会場だ。来年が楽しみになった。

駐車ライン

心遣いに守られて

交通便の良い大都会と違い、地方では車は生活の必需品だ。

消費税値上り直前の建築ラッシュで郊外に広大な無料駐車場が完備された大型ショッピング街が出現し、周辺に隣間に住宅が建ち並んだ。通勤や買物に主要な交通手段の車。複層台の自家用車を所有する家庭も多く、真新しい住居は、広目に駐車スペースを設けているのがみられる。

私たちが何気なく利用する駐車場をみると、十数年前調べた時には少数だったU字ラインの仕切りが、今は大半の店舗で取り入れられるようになったことに気付いた。U字ラインの利点は、ラインに沿って車を入れようとする心理を応用。そのために隣りの車間にU字幅分のゆとりが生じること。丸みのあるラインがやわらかさを感じさせることだ。

U字の先が切れているのは水はけの悪さだ。以前、中心部の銀行で外かけた無断駐車防止装置付きは取り外されてしまった。高層社会になり、面倒でも嫌われないか、ロックの必要がなくなったのか理由は不明。

集客要素として重要な役割を担う駐車場のライン、動線などへの配慮が益々必要になりそう。

駐車ラインがなかったら、どんな止め方するかしら?

駐車場の種類

。自走式
。手画、一層二段、複層立体

機械式

。多層循環、垂直循環、多段

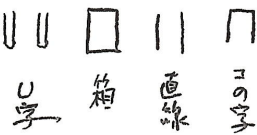
マンションなど機械式が多いが、出庫の際、時間がかかり、朝の渋滞など、時々モヤモヤするところもある、と聞いた。

敷地面積の広い郊外大型店舗などは、客の利便性、安全性を考慮し、自走式平面駐車場を採り入れている。

駐車マス

附属義務駐車条例で、乗用車の種類により大きさが定められている。

- 小型乗用車 2.3m x 5.0m
- 普通乗用車 2.5m x 6.0m
- 身体障害者の乗用車 3.5m x 6.0m



新潟大学病院

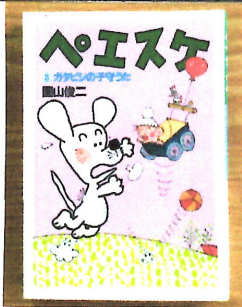
エニテロ

子母岩村産院

U字ライン

奥行	4.5m ~ 5.0m
駐車幅	内々で 2m
ライン幅	10cm or 15cm
R	50cm
U字幅	内々で 50cm

気が付いたら、書棚のマンガコーナーに、ペエスケを一冊抜き出して読んでみた。こんなに癒される、あったか〜いマンガだったか、と嬉しくなった。22年前、58歳の若さで亡くなった山田さん。朝刊の四コマは、サトウハチローさん、夕刊は山田さんだ。ペエスケで、す〜り元氣にならった。



ペエスケの作者、山田俊朝の著書

いいなこの本

月のつぶやき

昨日まで固い蕎麦を食った。牡丹が喉がさびた。我慢出来なかったのか、一気に咲き、自覚の度には華やかだ。この様子には、診療所も驚いて見に行きた。黄も白も蕎麦のままで、ホッとした。ゴールデンウィーク中に全部咲いてしまってもいいな。花好きの患者さんたちに、牡丹だ、大勢から「きれい」と声がかける。張り合っている。お願ひします。

風が心地良い。トマトおいしい。蒸もおいしい。冬の間は薪ストーブの近くに置くだけで簡単に出来た乾燥野菜や干しキノコと、外の風で干してみようかと思いつきネットで干カゴを購入した。二日程に届いたカゴは大き過ぎた(45x45)が、まあいいかと早速椎茸、エノキ、ご飯を干した。

干したものは旨味が増える。エノキは、木綿糸状になり茎に挟まれたりもするが、コリコリ、ネギネギとは茎が柔らかい。いつもの余ったご飯は丸めて冷凍保存にしていたが、NHKまる得マガジン「干物、乾物、修行」の本で紹介の、ご飯を干して作るのがおもしろいので、丸めて干し、フライパンで焼いてから干した。結果は、堅すぎる、と不評だった。素揚げ(しらせんべいみたいで)楽しめたけどなあ。キノコ類は、切ったりほぐしたりしてから干すとすぐ使えて便利。良いダシになる。干す前のひと手間を面倒からずには、当分は、お水で試そう。風とお日様に感謝しながら。

干して
美味しく

